

院生を育て院生が育てる研究開発コロキウム

教育学研究科研究科長 矢野智司

大学院教育学研究科・教育学部は、今年で創立60周年を迎えました。本研究科・学部は創立以来、一貫して高度な教育と研究とを実現し、優れた研究者・専門家を育成し、戦後の日本の教育学・心理学研究をリードしてきました。教職員・学生数では京都大学で最も小さな研究科・学部ですが、これまで果たしてきた役割はとて大きなものでありまし、これからもそうありたいと願っています。

私たちは、さらに教育と研究の質を高めるべく、積極的に競争資金の獲得を目指してきました。本研究科では、現在、3つのプロジェクトが同時並行的に進行しています。(1)グローバルCOE(教育学研究科拠点:平成19-23年度)「心が活きる教育のための国際的拠点」、(2)特別教育研究経費によるプログラム(平成19-23年度)「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」、(3)大学院GP(平成19-21年度)「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成(京大型臨床の知創出プログラム)」、グローバルCOEでは心理学・教育学の研究教育を中心に、また特別教育研究経費によるプログラムでは実際的な教育問題の解決という実践と若手研究者の育成を中心に、そして大学院GPでは大学院生の教育を中心に、それぞれが精力的に動いています。

「研究開発コロキウム」は、この3つのプロジェクトが目指しているそれぞれの教育目的を実現する大学院向けの授業科目の一つで、大学院生が主体の課題探求・討論科目です。大学院生の研究能力、創造性、問題解決能力、研究マネジメント能力、研究リーダーシップなどを育成し、大学院生の学術研究活動の発展を図ることを目的として開講されたものです。各研究プロジェクト(共同研究・学術調査・研究開発などの学術研究活動)は前年度末に大学院生を対象に公募します。講座や専攻の枠を越えた領域横断的研究を計画・組織することが推奨されています。各選考委員会において、優れた研究計画に対し、科学研究費に準ずる形式でその研究の一部を助成しています。そして採択された研究プロジェクトは、大学院科目「研究開発コロキウム」として編成され、担当の教員が決められ、授業時間割に組み込まれるのです。授業科目ですから、修士課程の場合は単位認定の対象となります。

2005年度の「魅力ある大学院教育」イニシアティブ以来、「研究開発コロキウム」が継続され、毎年優れた報告書が作成されてきました。その報告書の質の高さから、これまでのさまざまな外部評価においても、この授業は院生の研究能力を高めるものとして高い評価を受けてきました。近いところでは、本年のグローバルCOEへの評価においても、優れた教育の試みとして高い評価を受けています。そしてまたこのような高い研究成果をあらわす報告書ができましたことは、「研究開発コロキウム」が優れたカリキュラムであることを示すとともに、本研究科の院生諸君が優れた研究能力を発揮していることを示すものであり、大変誇りに思っております。